



まさかず かくま正一通信 (No.21)

ごあいさつ



皆様こんにちは。皆様から温かいご支援を賜り心より感謝申し上げます。本年は、昨年末スタートした安倍内閣により、経済立て直し、外交立て直し、教育立て直しが着実に前進する年でなければならないと思います。

私は、第1に「健康」というテーマについて様々な観点からの検討、第2に新たな交流時代を迎え新川地域の更なる磨き上げ、この2点を本年の主要テーマにして取り組む所存です。

皆様のご指導と叱咤激励を心よりお願い申し上げます。

鹿熊 正一

『かくま正一通信 (No.20)』以後の私の活動の一端を報告いたします。
皆様からご意見やご提言をお寄せ頂ければ幸いです。

農林水産委員会で質問

平成24年9月25日、農林水産委員会が開催され、2点質問した。

【質問1—食育の推進について】

第2期富山県食育推進計画（計画期間：24年度～28年度）が平成24年8月からスタートした。食育は、県が市町村や関係団体と一体となって推進しなければならない事であり、早期に市町村食育担当者会議を開催し、第2期計画の周知を図り推進する体制を整える事が必要でないか、問う。

《この質問の趣旨》食育について、これまで度々質問してきました。第2期計画の策定を機に、食を基本とした健康県づくりに向け、県は市町村と一体となった取組みをより強化する事が大事である。

【質問2—富山の肉のブランド力アップについて】

①重要なタンパク源である肉食について、県民の正しい理解

を広めより肉食普及を図る事が必要でないか、問う。

②富山の肉、特に牛肉や豚肉の品質の高さと旨さを県内外の人々にPRし、食べて頂く機会を増やし、ブランド力アップを図る事が必要でないか。

《この質問の趣旨》リクルート社の2012年の調査で、富山県の満足度が前年の10位から38位に急落した要因の1つに、地元ならではの美味しい食べ物が少ない事が挙げられる。お客さんは、富山の美味しく新鮮な魚だけでは満足しない。魚も米も美味しかった。その上、富山の肉も旨かった、が大事。氷見牛や黒部名水ポークは石川県や福井県の肉に比べて何ら遜色は無いと思う。それなのに、この調査で、石川県も福井県も2年続けて、地元ならではの美味しい食べ物が多かった部門で10位以内である。要は、PRの差だ。富山は魚のPRと同様に肉のPRを強化すべきと思う。

（質問と答弁の詳細は、富山県議会ホームページに掲載されています。ご参照下さい。）

自民党の政策形成のための重要会議開催

平成24年9月27日と28日の両日、自民党県連は、次年度に向けた政策形成と予算要望のための重要な会議を開催した。私は、両会議に出席し、現状を学ぶと共に意見も述べた。



【9月27日—15の医療・福祉・健康関係団体との意見交換会】

様々な意見、要望が出された中で私が重要と思う課題。

- ①食育推進の観点から、行政における栄養士人材の充実と学校における栄養教諭の充実。(県栄養士会)
- ②アイバンクコーディネーターや臓器移植コーディネーターの人員体制の充実支援。(県アイバンク、県移植推進財団)
- ③ホームヘルパー人材の不足と高齢化による地域・在宅介護力の低下問題。(県ホームヘルパー協議会)
- ④特別支援教育の充実、地域生活支援、就労支援の推進、処遇環境の改善。(県手をつなぐ育成会)

【9月28日—新川2市2町の自民党政策責任者との意見交換会】

- ①住民の安全・安心の確保に関する要望が最も多かった。
——道路改良、信号機設置、河川改修、海岸・砂防事業、学校耐震化、農業農村基盤整備、有害鳥獣対策etc.
 - ②北陸新幹線開業を睨んだ、広域観光、2次交通対策の推進
 - ③地域医療の充実(施設整備と人材確保)
 - ④H27開催の「全国豊かな海づくり大会」の魚津市誘致
- 自民党は、上記の会議や議員の日常活動を通して得られる多くの県民の声を集約して、政策を形成し予算に反映していく。このような地道な努力の積み重ねが大事だと思う。

水土里探訪ウォークイン「魚津」に参加

平成24年10月6日、私は、県東部土地改良協議会長として、水土里探訪ウォークイン「魚津」に参加した。県内各地から160人を超える参加者、そして、スタッフ約60



人。農業用水を確保してきた先人の英知や苦勞に触れながら2時間余り楽しく歩いた。魚津市の天神山野球場をスタートし、1650年代に218mの木製の樋をかけて水を引いた高円堂用水(現在は鉄筋コンクリート水路)や昭和30年に県内初の円筒分水槽として整備された東山円筒分水槽(直径9.12m)等を見学し、県や魚津市の担当者か

ら説明を聴いて歩く有意義なウォークだった。子ども達も多く参加していた。このような機会に山林、農地、海をつなぐ水の循環や水の大切さを学んでくれたら嬉しい。

感動した「定時制通信制生徒生活体験発表大会」

平成24年10月16日、第60回富山県高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会があり、5つの高校から14人の生徒が出場した。私は、県高等学校定通教育振興会副会長



として出席した。60回という節目にふさわしい、聴衆に感動を与える発表会であった。感動の1つは、優れたコミュニケーション力だ。どの生徒も、発声、抑揚、表情が素晴らしく、気持ちや思いを実に上手く聴衆に伝えていた。感動の2つ目は、もちろんその内容だ。生徒達は、葛藤の中で自分を見つめ立ち直った事や教員や介護士になる夢に向かって前進する挑戦心や家族や友人への感謝の気持ち等をしっかりと表現していた。

私は、定時制・通信制教育は、人としての基本的な姿勢や自立のためのスキルを身に付けると同時に、それぞれの生徒の個性を伸ばし多様な人材を育成する事にその使命があると考えている。多様性が求められる今、なくてはならない教育制度だと思う。私は、これからも定時制・通信制教育の振興に努めていきたいと思う。

文化、地域の元気、食の魅力、豊かな海 —秋の一日—

平成24年11月4日は、各地で秋の催しが開催された一日であった。

私は、最初に、朝日町で開催されていた菊花展、美術展を鑑賞した。夏の猛暑の中、会員の皆さんが丹精込めて育てられた菊は、それぞれ奇麗、堂々、端正であり、心和む一時であった。また、美術展は、写真、絵画、書、工芸それぞれの部門で、洗練された作品が出展されていて感動した。



それから、入善町青島地区の「汗と努力の結晶展」に出席。当地区の住民の皆さんが揃って秋の収穫を喜び楽しみ合い、地域の元気の源となっている催しだ。美味しい鍋やそばを頂いたり、もちつきをしたりと、皆さんの笑顔とパワーの中で暫し楽しませて頂いた。

それから、富山市のテクノホールで開催の「食の王国フェスタ2012秋の陣」へと向かった。広い会場に所狭しと県内各地から様々な農(林水)産品が出品され、その盛

況ぶりに驚いた。改めて食に対する県民の関心の高さと各生産者の魅力ある農（林水）産品づくりへの努力とこだわりを感じた次第。

最後に、ボルファートとやまで開催された「第2回豊かな海づくりフォーラム」に出席し、神奈川県水産技術センター主任研究員の工藤孝浩氏の「東京湾のアマモ場再生活動」と題する講演（写真）、水中写真家の中村宏治氏の「富山の海、日本の海」と題する講演を美しい映像を見ながら聴いた。工藤氏の講演の中で、「海の世界再生の先に、地域から失われた民俗伝承の再生が見えてきた」という言葉が印象に残った。慌ただしくも学びの多い一日だった。

海岸整備事業にエンディングは無い —議員連盟で要請—

平成24年11月9日、私が会長を務める下新川海岸整備事業促進議員連盟は、国土交通省、農林水産省に要請活動を行った。下新川海岸は、片貝川から東約17.2kmの直轄海岸とそれに続く境川までの約6.3kmの補助海岸の延長約23.5kmの海岸である。この海岸は、富山湾特有の「寄り回り波」の発生や著しい海岸浸食により、これまで沿岸地域住民に多大な被害をもたらしてきた。当議員連盟の継続した要請活動の結果、着実に整備は進んでいるものの、高波や海岸浸食といった自然の猛威に対峙する海岸事業にエンディングは無い。この日、新川地域の県議と2市2町議会の議長は、国交省の足立敏之水管理・国土保全局長はじめ関係部局に対し、住民の安全・安心確保のため事業の促進を強く要請した。



党員の信頼を得、町民の期待に応える自民党を目指して

自民党朝日町支部は、平成24年11月20日と21日に、友好団体との意見交換会を行った。対象団体は、建設業協会、商工会、漁協、社会福祉協議会、観光協会、JAみな穂の6団体。土地改良区は29日に予定。この意見交換会の目的は、①保守系議員と各団体と問題意識を共有する、②共に町づくりや地域の活性化を考える、③町議会や県議会における政策提言に結び付ける等。平成24年で3年目となり着実に成果を挙げていると思う。自民党は地方の基盤で成り立っている政党である。その基盤が揺らぐと自民党そのものが揺らぐ。基盤がしっかりするかどうかは、党員の信頼を得、町民の期待に応えているかどうかだ。その



ために、議員各位が現状を知り、党内で問題解決に向け議論し、議会で結論を出す、その過程を党員、町民に知って頂く努力をする事が大事だと思う。その観点から、この意見交換会を今後も継続する中で、より実のあるものにしていきたい。

自民党政権復帰 —総力、全力で責任を果たそう—

平成24年12月16日の衆議院総選挙で自民党は圧勝し政権に復帰する事となった。公明党と合わせて320議席を超えた。政権の責任は極めて重い。景気・経済対策、外交、社会保障、震災復興はじめ国土強じん化、エネルギー問題等、どの課題も困難且つ待った無しだ。

デフレ要因による需給ギャップを埋めるためには、財政出動が絶対必要だ。そして安全な国土形成には、必要なコンクリートを用意しなければならない。景気回復がなければ増収増税が図れず、社会保障の議論は進まない。また、外交力は日々の個々の経済活動に影響する。エネルギーのあり方は経済活動に直結だ。

当選した自民党議員に喜びに浸る人はいないはず。課題解決に総力、全力を挙げる時が来た。

新たな観光スポットの視察 —まち興しを学ぶ—

平成25年1月9日、10年の歳月と総事業費485億円をかけて建設し昨年9月に開通した新湊大橋をマイカーで通ってみた。『よくぞ、このスケールの橋を建設したもんだ』という第一印象だ。海面上47mからの眺望は、車内からとは言え抜群だ。（残念ながら、桁下の自転車歩行者道は、強風による上下の揺れが想定値の3.5倍であったため、対策工事中で今年の5月頃まで通行不可の状態。）新しい観光スポットであり集客力は大いに見込めると思う。



ただ一時的な人気に終わらせないためには、周辺の観光施設の整備充実とそれらとの連携が必要であろう。一方、人や物の海上輸送と地上輸送とを結ぶ機能については、よく分からず今後の関心事である。その後、氷見漁港に隣接して昨年オープンした「ひみ番屋街」を視察した。民間と行政がタイアップし、地域の活力を維持、向上することを目的に、市民の生活の場と広域観光スポットが直結した施設となっている。『地元の資源を活かす民の力と行政の後押し』、これがまち興しのキーワードであることを実感した。

新しい条例制定に向けスタート

1月29日、富山県歯科医師会の中道勇専務理事を講師に、「歯科保健の現状と課題」について党の勉強会を行った。改めて認識した点として、



- 1) 歯の健康度の悪い人ほど、年間医療費が高いこと。
- 2) 歯周病と他の疾患（糖尿病、肺炎、狭心症、認知症、低体重児等）との関連性があること。
- 3) 歯周疾患検診実績が低いこと。H22の県実績は、40～70歳で5.9%と低い。
- 4) 要介護者と歯科治療の必要性について。等々。

自民党議員会は、当日、この勉強会をスタートにして、県民の一層の健康増進を目指し、歯科口腔保健に関する施策を総合的に推進するための議員提案条例の制定に向けて検討していくことを決めた。随時、検討状況をお知らせいたします。

並行在来線に関するタウンミーティングが始まる

富山県並行在来線経営計画概要が1月23日に決定された。これを基に、2月から沿線市町村で利用促進に向けての意見交換会（タウンミーティング）が開催されている。この意見交換会の必要性は、私が、これまで、新幹線・並行在来線に関する政策討論委員会や特別委員会で常に主張してきた点であり、ようやくそれがスタートした。この経営計画概要では、運賃水準を現行の概ね1.19倍（通学定期は1.15倍）に抑え、62億円余の経営安定基金を設置し、収支見通しとして、開業翌年度収支△3億円、開業10年目収支1億円の黒字、約10年間の累積収支1億円の黒字としている。この通りであれば良いが、そうでなければ県民に新たな負担が発生する。その鍵の1つは、如何に利用促進を図るかだ。

将来需要予測は、開業後10年後に利用者は20%減と厳しい。2月からのタウンミーティングが、県民の皆さんにマイレール意識が生まれる良ききっかけとなることを願う。

JRとの交渉、国の支援強化、市町村との協議等県の粘り強い取組みの成果を基に、この経営計画は出来た。これからの課題は、並行在来線の利用促進策だ。

バタバタ茶で語ろう会 —食と健康を思う—

長寿社会を健康に生きピンピンコロリと一生を結ぶ事は、誰もの願いであり社会の理想だと思う。そのために

は、日頃の生活習慣が大事で、中でも食生活のウエイトは大変大きい。

朝日町に蛭谷地区という過疎化と高齢化が進んでいる地区がある。そこでは、毎日、



どこかの家で近所の人々が集まり、独自の味付けの山菜煮や漬物を持ち寄り、バタバタ茶を飲みながら会話を楽しんでいる。平均年齢80歳ぐらいの女性の皆さん方だ。先日、町中から80人近くの女性の皆さんがこの蛭谷の自治振興会館に集い、「バタバタ茶で語ろう会」が開催された。茶会の前に1時間程の県政・町政報告をしその後意見交換会。公共バス、病院、観光、食育、女性の役割等いろいろな意見、質問が出た。それから、いよいよ茶会。30種類以上の食材からなる手づくり料理を味わい、バタバタ茶で炊いた茶飯を食べながら2時間近く話が弾んだ。

つくづく女性パワーを感じると同時に、健康のことは、食事、会話、笑いだと改めて思う。長寿社会の中で持続可能な社会保障を構築する事は、政治の目指すテーマであるが、健康は個人の問題でもある。

臨時県議会開催

—24年度大型補正予算可決—

2月18日、富山県議会は臨時会を開催し、補正予算としては過去最大規模の420億円余りの予算案を審議可決した。今回の補正予算のための臨時会は、S38（38豪雪対応）、S44（44豪雨災害対応）、H21（リーマンショック不況対応）に次ぐ4回目であり、安倍政権の経済対策のための国の大型補正予算に対応したものである。

柱は、【1】橋やトンネル補強、通学路安全対策、河川・海岸・砂防事業等の防災・減災事業の推進【2】農業基盤整備や農業用水利用の小水力発電の整備等地域活性化のための社会資本整備の推進【3】県立高校の耐震化推進、県民会館の耐震化・機能向上【4】信号機の更新や木造住宅の耐震化推進等の安全対策の推進、等である。

いずれの柱も重要であり、これらの公共事業に324億円を計上している。質疑では、これだけの大型予算をきちんと消化できるのか？という懸念が多く議員から指摘された。近年の公共事業の半減により、県内建設業者は、人員、資機材を大幅にスリム化している現状下、当然の懸念だ。補正予算が効果を発揮するためには、発注者側の細心の対応や努力が必要だ。例えば、年間事業量の平準化、設計書などの書類の簡素化、技術者や現場代理人の配置要件の緩和等である。そして、私が強調したいのは、公共事業の充実が一過性ではいけないという点だ。インフラの整備・維持管理は計画的かつ継続的でなければならない。そうでなければ、大きなツケが後世に残る。

政府を挙げて「領土教育」の推進を

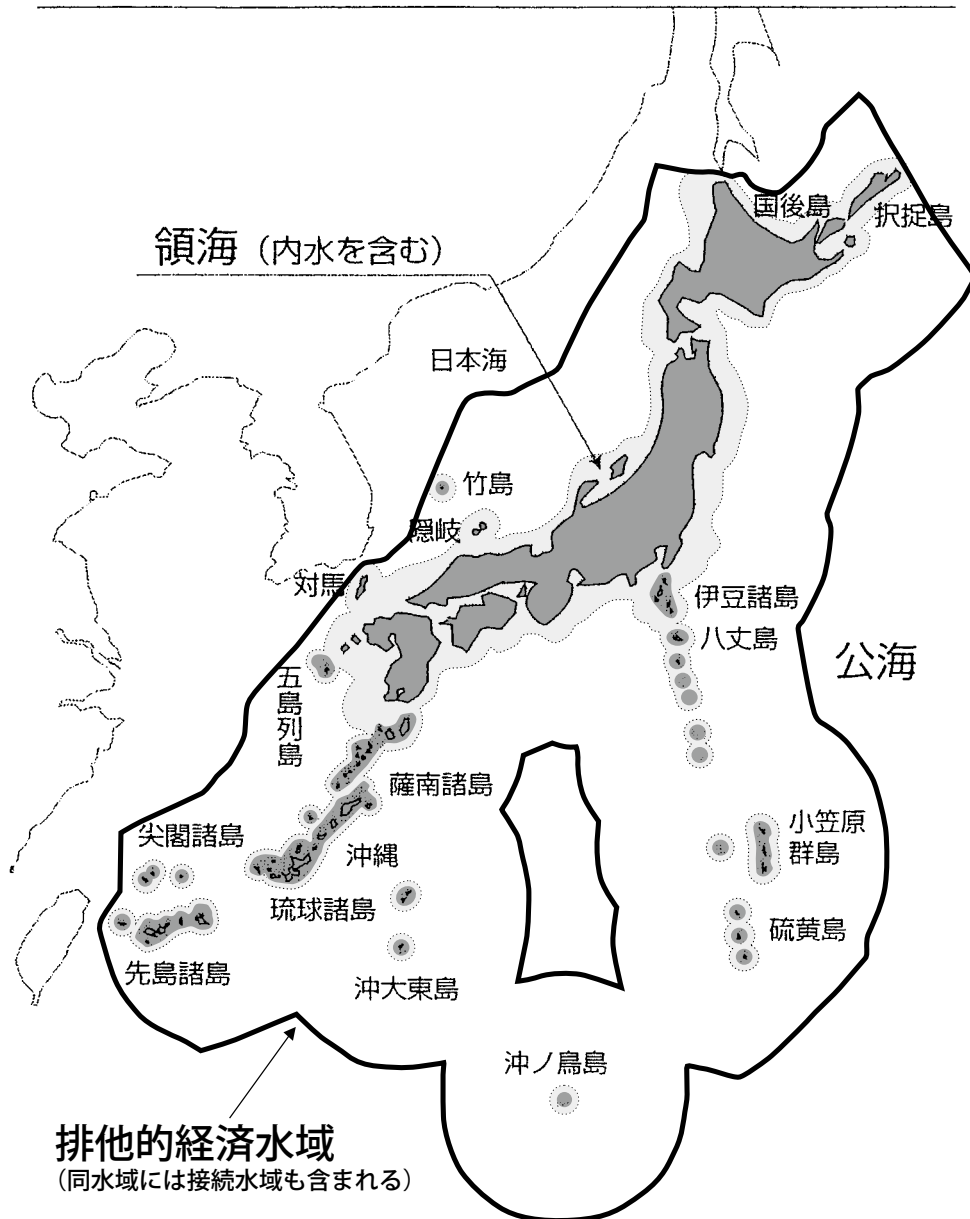
最近、私は、県政報告会等で、学校での「領土教育」の必要性を強調している。

国民が領土に対する正しい知識を持たなければ、ロシア、韓国、中国との争いがある領土の保全は容易でない。次代を担う子供達に、北方領土、竹島、尖閣諸島について正しい知識を与えることは国家の責務であると考えます。

また、国防の観点のみならず、我が国が多くの島々から

成る海洋国家であることも周知すべきことと思う。我が国の国土面積は約38万km²であるが、多くの島を有するため領海+排他的経済水域の面積は約447万km²であり、豊かな海洋資源、エネルギー資源に恵まれていると言える。そして、この豊かな資源も領土問題の一因となっている。国防と資源防御の観点から、政府挙げて「領土教育」を推進すべきと言いたい。

日本海域の地図



国土面積	約38万km ²	領海(含：内水)	約43万km ²
接続水域	約32万km ²	排他的経済水域	約405万km ²
領海(含：内水)+ 接続水域		約74万km ²	
領海(含：内水)+ 排他的経済水域		約447万km ²	

平成25年度富山県一般会計予算 (ポイント)

予算総額 5,450億62百万円 (H²⁴5,498億93百万円、▲0.9%)
 >14か月予算 (H²⁵当初+H²⁴2月補正) 5,871億33百万円 (H²⁴14か月 比+5.4%)

「元気とやま」の創造

○ 北陸新幹線開業を活かした地域の活性化 (元気な富山県づくりの正念場)

◆北陸新幹線開業対策枠

- 観光振興と誘客・交流の促進
 - ・JR各社と連携した旅行商品の造成や広告宣伝の実施、富山まるごと旅行商品化プロジェクトの実施 など
 - ・新幹線時代の定住・半定住受入モデル地域の育成支援、映画を活用した富山暮らしの体験 など
- 産業と地域の活性化
 - ・企業誘致新幹線広報の推進、首都圏展示会への共同出展、大規模展示施設改修改築等の検討 など
 - ・商業・サービス活性化資金「新幹線開業対策枠」(新規融資枠15億円、利率：年1.35%)
- 二次交通の整備・充実、基盤整備等
 - ・並行在来線交通ICカードの導入支援、新幹線アクセス路線バス等実証運行の支援 など
 - ・県立文化施設耐震化・整備充実のための検討、県立文化施設の改修 など

◆陸・海・空の交通基盤の整備等

- 北陸新幹線の整備促進など
 - ・新幹線接続新駅設置への支援、並行在来線の経営安定対策、新幹線アクセス路線バス等実証運行支援 など
- H24年度2月補正予算と一体となった地域活性化のための社会資本整備等の推進 (新幹線除き)
 - ◇公共・直轄：562.8億円 (H²⁴当初568.1億円、△0.9%) [14か月²⁵865.2億円/²⁴570.1億円：+51.8%]
 - ◇主要県単：135.4億円 (H²⁴当初139.1億円、△2.7%) [14か月²⁵157.5億円/²⁴156.1億円：+0.9%]
 - ・国道8号入善黒部バイパス等の整備 など
 - ・新幹線新駅等へのアクセス道路の整備 など
 - ・農業基盤整備、小水力発電施設の整備、林道の整備 など

○ 新・元気とやま創造戦略枠 (将来の成長や発展につながる政策)

- ・活力、未来、安心を柱とする「新・元気とやま創造計画」の政策目標を着実に推進
- ・本県の発展のための「重点戦略」と重要政策「人づくり」に係る事業に予算を優先配分

5つの重点戦略

- ★グローバル競争を勝ち抜く環日本海・アジア戦略
ものづくり産業の高度化、海外ビジネスの展開支援 等
- ★少子高齢化・人口減少社会における活力創造戦略
若者が働き暮らせる環境づくり、女性、高齢者が活躍できる環境づくり 等
- ★災害に強い「日本一の安全・安心県」戦略
防災・減災のための体制づくり、災害に強い県土づくり、災害に対応できる人づくり
- ★環日本海地域の「環境・エネルギー先端県」戦略
循環型・低炭素社会づくりの推進、県民総参加によるエコライフの実践 等
- ★いつまでも、みんな元気「健康先進県」戦略
いつまでも元気に自立して暮らすための健康づくりの推進、がん予防の推進 等

重政要策

人づくり
将来を担う人材の基礎づくり、成長と自立、社会参加・社会貢献の促進、能力を発揮できる環境づくり 等

熊正会からお知らせ
 熊正会は鹿熊正一県議を資金面で支援する資金管理団体です。鹿熊県議の政治活動並びに後援会活動が一層充実し活発になりますよう皆様の温かいご支援を心からお願い申し上げます。年会費は、個人、法人とも一口5,000円からです。お問い合わせ等は鹿熊正一事務所までご連絡下さい。

まかさず かくま正一通信 (No.21)

発行日 平成25年3月
 発行者 熊正会・自由民主党富山県議会議員会
 事務所 〒939-0742 下新川郡朝日町沼保1173-1 TEL 0765-82-1333 FAX 0765-82-2113
 正一メールアドレス masakazu@kakuma.net

◎「かくま正一通信」は資源保護のため再生紙を使用しています。